

### Ⅲ 結論 聴覚障害児教育におけるきこえの自己評価を用いた 聴覚評価

#### 第1章 本研究のまとめ

本研究では、聴覚障害児のきこえに関する自己評価を用いた聴覚評価法の確立に向けた基礎的な知見を得ることを目的として、聴覚障害児のきこえの自己評価について研究した。

評価内容や実施方法の検討、きこえの自己評価リストの試作と実施した結果をもとにした聴覚検査との関連や年齢の影響の検討、保護者による評価との関連の検討、きこえの自己評価の継続使用による人工内耳による聴覚補償の評価の検討を行った。

その結果から、以下の知見を得た。

- ①評価内容と実施方法の工夫により、学齢期の聴覚障害児のきこえに関する自己評価を引き出すことが可能である。
- ②聴覚障害児によるきこえの自己評価の結果は、平均聴力レベルや補聴閾値を反映しており、聴覚補償の評価として用いることが可能である。
- ③聴覚障害児によるきこえの自己評価の結果について、聴覚障害児の年齢の影響は認められなかったことから、学齢期の聴覚障害児はきこえの自己評価が可能である。
- ④聴覚障害児のきこえの自己評価により、学齢期の聴覚障害児の日常生活におけるきこえの状態を把握することができた。
- ⑤聴覚障害児のきこえの自己評価は、継続的な評価の実施により、人工内耳による聴覚補償の評価法として活用が可能である。

## 第2章 今後の課題と展望

本研究では、学齢期の聴覚障害児のきこえに関する自己評価について、評価内容や実施方法、聴覚検査との関連、きこえの自己評価の試行や継続使用による聴覚補償の評価の検討を行い、知見を得ることができた。しかし聴覚障害幼児のきこえの自己評価についての検討は十分ではなく、さらに年齢の低い幼児に対する評価方法の検討が必要である。

評価内容については、現在我が国で進められている特殊教育から特別支援教育への移行に伴って聴覚障害児を取り巻く教育環境や生活環境が変化し始めているため、本研究で行った内容では学齢期の聴覚障害児の日常生活を十分に反映しきれないことが予想される。そのために場面設定や内容の検討を行う必要があると考えられる。また聴覚検査との関連では、聴力閾値との比較だけではなく、語音・会話音、騒音下での聴取能力などとの関連についての検討を加える必要がある。臨床応用については、本研究では十分に取り組むことができなかった。そのために聴覚障害児教育の臨床場面において、聴覚障害児の自己評価をもとにした一人ひとりの補聴機器や補聴環境の一層の改善の取り組み、さらにはきこえの自己評価を用いた聴覚活用の指導や支援の取り組みをとおして、聴覚障害児のきこえの改善や生活の質の向上を目指していかなければならない。加えて聴覚障害児を支える聴覚障害児教育の充実も進めていかなければならないと考える。

今後は、これまでの研究成果を基盤として、聴覚障害児によるきこえの評価全般の研究を進め、幼少期の聴覚障害児によるきこえの自己評価法の確立と聴覚障害児における聴覚を活用した指導と支援の一層の充実と発展を目指していく必要があると考える。

## 文 献

- 安達忠治・小寺一興・設楽仁一・芦野聡子(1996)聴力レベル・語音明瞭度・難聴の種類と日常生活の理解度との関係. *Audiology Japan*, 39, 240-244.
- 我妻敏博(1996)聴覚障害児の文理解能力の研究. 風間書房.
- Anderson K L, Smaldino J J. (2000) Children's home inventory for listening difficulties (CHILD). Educational Audiology Association.
- 浅野和江・佐野肇・竹内義夫・鈴木淳子(1987)コミュニケーション障害自己評価尺度について. *Audiology Japan*, 30, 689-690.
- 聴覚障害者教育福祉協会(1989)聾教育百年の歩み. 平和堂.
- Cole E, Gregory M. (Eds) (1986) Auditory Learning. *The Volta Review*, 88(5).
- Cox R M, Alexander G C. (1995) The abbreviated profile of hearing aid benefit. *Ear and Hearing*, 16, 176-186.
- Cox R M, Alexander G C. (1999) Measuring satisfaction with amplification in daily life: The SADL scale. *Ear and Hearing*, 20, 306-320.
- Davis H, Silverman S R. (Eds.) 江口実美・大西信治郎・大沼直紀・賀戸久・星名信昭(訳)(1988)聴覚障害学. 協同医書出版. (Davis H, Silverman SR. 1978 *Hearing and Deafness. 4th ed.* New York : Holt, Rinehart and Winston. )
- Dempsey J J. (1994) Hearing Aid Fitting and Evaluation. *Hand Book of Audiology*. 4<sup>th</sup>ed, Pp. 723-735.
- Dillon H. (2001) *Hearing aids*. Boomerang Press, Sydney.
- Erber N P. (1979) Audiologic Evaluation of Deaf Children. *Journal of Speech and Hearing Disorders*, 41, 256-267.
- 藤巴正和(2002)難聴者の障害受容過程に関する1考察. ろう教育科学, 44 (1), 13-23.
- 藤沢直人・川野通夫・山口忍・中島志織・藤木暢也・内藤泰・児嶋久剛(2000)高齢者の人工内耳装用効果. *Audiology Japan*, 43, 250-255.
- Garstecki D, Hutton C L, Nerbonne M A, Newman C W, Smoski W J. (1990) Case Study Examples Using Self-assessment. *Ear and Hearing*, 11 (5), 48S-56S.
- 濱田豊彦(1998)難聴児の聴覚活用の発達に関する研究. 風間書房.

- 原田博文・白石君男・江浦陽一・柴田憲助・坂田俊文・加藤寿彦・曾田豊二(1997) 定年退職時の自衛官の HEARING DISABILITIES AND HANDICAP SCALE によるアンケート調査. *Audiology Japan*, 40, 178-182.
- Hetu R, Getty L, Desilets F, Noble W, Stephens D. (1994) Development of a Clinical Tool for Measurement of the Severity of Hearing Disabilities and Handicaps. *Journal of Speech-Language Pathology and Audiology*, 18, 83-95.
- High W S, Fairbanks G, Glorig A. (1964) Scale for Self Assessment of Hearing Handicap. *Journal of Speech and Hearing Disorders*, 29, 215-230.
- 星龍雄・都築繁幸(1980)聴覚障害児の補聴器装用意識に関する研究：筑波大学附属聾学校児童・生徒の場合を中心に. 筑波大学学校教育学部紀要, 2, 193-202.
- 星名信昭(1973)ろう学校から普通学校に転校した児童のケース報告:会話資料の分析から. 日本特殊教育学会第11回大会論文集, 86-87.
- 星名信昭・岩城謙(1979)聴覚障害児の聴能訓練に関する研究. 日本特殊教育学会第17回大会論文集, 178-179.
- 星名信昭・岩城謙・今井秀雄(1979)聴覚障害児の聴能訓練に関する研究：目標構成要因の分析・検討. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 6, 115-119.
- 星名信昭・岩城謙・今井秀雄(1980)聴覚障害児の聴能訓練に関する研究Ⅱ. 国立特殊教育総合研究所研究紀要7, 107-119.
- 星名信昭・岩城謙(1981)聴覚障害児の聴能訓練に関する研究(Ⅲ). 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 8, 121-132.
- 星名信昭・加藤哲則・赤坂宜紀・白井一夫(2002)地域の聴覚障害教育センターとしての聾学校. 上越教育大学研究紀要, 22 (1), 247-255.
- 星名信昭・加藤哲則(2003)聴覚補助としての音響振動の効果, その2. 上越教育大学研究紀要, 23 (2), 501-510.
- 星名信昭・加藤哲則(2005)聴覚障害児・者のきこえに関する自己評価について. 上越教育大学研究紀要, 24 (2), 801-814.
- 今井秀雄・高橋信雄(1980)聴覚障害児用環境音受聴テストの試行. *Audiology Japan*, 23, 547-548.
- 稲荷邦仁・高橋信雄(2002)聾学校における人工内耳装用児の実態. 日本聴覚障害教育実践学会第2回大会発表論文集, 27-34.

- 板橋安人(1986)聾学校高等部における補聴器の装用に関する意識調査. 筑波大学附属附属聾学校紀要, 8, 9-22.
- 板橋安人(1988)本校児童・生徒における補聴器の装用意識に関する研究. 筑波大学附属聾学校紀要, 11, 171-190.
- 井坂行男(2003)聾学校における通級による指導の現状と課題について. 特殊教育研究, 40 (5), 580-581.
- 井坂行男・豊田恵梨名(2003)聾学校における教育的サービスの現状と課題. 上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 9, 9-16.
- Kaga K, Nakamura M, Shinogami M. (1996) Auditory nerve disease of both ears revealed by auditory brainstem response, electrocochleography and otoacoustic emissions. *Scandinavian Audiology*, 25, 233-238.
- 粕谷由美・大和田健次郎(1993)補聴器装用後の評価. 聴覚言語障害, 22 (1), 1-5.
- 加藤哲則(1999)聾学校小学部児童の補聴器活用に関する自己評価の研究. 上越教育大学大学院学校教育研究科修士論文.
- 加藤哲則(2002)愛知県における聾学校の通級による指導の現状. 上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 8, 25-30.
- 加藤哲則(2005)聾学校における通級による指導の現状と課題について(その2). 特殊教育研究, 42 (5), 435-436.
- 加藤哲則・星名信昭(1998a)聾学校小学部児童による補聴器活用の意識調査. 日本特殊教育学会第36回大会発表論文集, 80-81.
- 加藤哲則・星名信昭(1998b)聾学校小学部児童の補聴器活用に関する調査: 保護者と担任教員の評価を中心に. 第32回全日本聾教育研究大会研究集録, 119-120.
- 加藤哲則・星名信昭(2001)保護者による聾学校小学部児童の補聴器活用の評価. 上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 7, 17-22.
- 加藤哲則・星名信昭(2003a)人工内耳手術前のきこえに対する聴覚障害児と保護者の評価. 第3回日本聴覚障害教育実践学会発表論文集, 45-49.
- 加藤哲則・星名信昭(2003b)人工内耳装用に関する自己評価の検討(その1). 日本特殊教育学会第41回大会論文集, 234.
- 加藤哲則・星名信昭(2004a)人工内耳装用に関する自己評価の検討(その2). 日

- 本特殊教育学会第42回大会論文集, 374.
- 加藤哲則・星名信昭(2004b)学齡期に人工内耳を適応した聴覚障害児のきこえに関する自己評価. *Audiology Japan*, 45, 539-540.
- 加藤哲則・星名信昭(2005)学齡人工内耳装用児のきこえに関する自己評価の事例的検討. *Audiology Japan*, 47, 234-241.
- 加藤哲則・星名信昭・我妻敏博(1999)聾学校小学部児童の補聴器活用に関する自己評価. 日本聴覚医学会第22回補聴研究会資料集, 25-29.
- 小出和生・鳥山稔(1980)補聴器装用者の実態. *Audiology Japan*, 23, 549-550.
- 河野淳・間三千夫・城間将江・伊藤真郎・湯川久美子・高橋整・船坂宗太郎・熊川孝三(1989)人工内耳装用者のコミュニケーション状況に関する主観的評価: 補聴器装用者平均聴力レベル100dB以上との比較を中心として. *Audiology Japan*, 32, 607-608.
- Kessler A R, Giolas T G, Maxon A B. (1990) *The Hearing Performance Inventory for Children (HPIC). Reliability and Validity*. American Speech Language Hearing Association, Seattle, Washington.
- 国立特殊教育総合研究所聴覚・言語障害研究部(1997)聴覚を活かす教育のための評価と指導チェックリスト. 国立特殊教育総合研究所聴覚・言語障害研究部.
- Kramer S E, Kapteyn T S, Festen J M, Tobi H. (1995) Factors in Subjective Hearing Disability. *Audiology-official organ of the International Society of Audiology*, 34, 311-320.
- Machado J M. (1985) *Early Childhood Experiences in Language Arts*. Delmar Publishers, New York.
- McCracken W, Laoide-Kemp. (1997) *Audiology in Education*. Whurr Publishers, London, UK.
- 宮北隆志・上田厚・調所廣之・工藤葉子(1997)日本語版 Hearing disability and handicap scale (HDHS)による聴力障害の自己評価. *Audiology Japan*, 40, 64-71.
- 文部省(1978)特殊教育百年史. 東洋館出版社.
- 文部省(1992)聴覚障害教育の手引き: 聴覚を活用する指導. 海文堂出版.
- 文部省(1999)盲学校, 聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月).

- 文部省(2000)盲学校, 聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説: 自立活動編. 海文堂出版.
- 森田雅子・太田富雄(1999)聴覚障害児の障害認識に関する1考察. ろう教育科学, 41 (2), 51-65.
- 中川辰雄(1993)聴覚障害児の補聴器フィッティングの評価に関する研究. 国立特殊教育総合研究所紀要, 20, 97-103.
- 中川辰雄(1994)明瞭度指数を用いた聴覚障害児の補聴器フィッティングの評価について. *Audiology Japan*, 37, 741-747.
- 中川辰雄(1997)補聴器装用の主観的評価: 保護者の見方と聴覚障害児の自己評価. 第35回日本特殊教育学会発表論文集, 60-61.
- 中川辰男(1999)聴覚障害児の補聴器の自己評価. 日本特殊教育学会第37回大会論文集, 37.
- 中川辰雄(2001)親による聴覚障害児の聞こえと音声表出の評価. 音声言語医学, 42, 137-144.
- 中川辰雄(2003)聴覚障害児における補聴器装用下の聞こえと聴覚的理解の自己評価. 特殊教育学研究, 40 (5), 471-477.
- 中川辰雄・長原太郎(2000)聴覚障害者による補聴器の自己評価. *Audiology Japan*, 43, 280-286.
- 中川辰雄・大沼直紀(1985)聴覚障害児の聴能の評価法に関する研究(I). 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 12, 83-90.
- 中村輝子・山口忍・小村桃子(2001)人工内耳装用児の聴能と構音の発達. *Audiology Japan*, 44, 461-462.
- 檜村裕美・井脇貴子・大草方子・久保武(1995)難聴者の日常生活におけるハンデイクャップ調査. *Audiology Japan*, 38, 661-662.
- 日本オージオロジー学会(1957) 57式語音聴力検査用語表. 日本オージオロジー学会.
- 日本オージオロジー学会(1967) 67式語音聴力検査用語表. 日本オージオロジー学会.
- 日本聴覚医学会(1990)「聴覚検査法(1990)」について. *Audiology Japan*, 33, 793-806.

- 日本聴覚医学会(2003a)聴覚検査法(2003)の制定について. *Audiology Japan*, 46, 601-619.
- 日本聴覚医学会(2003b)語音聴覚検査法(2003)の制定について. *Audiology Japan*, 46, 620-637.
- 西山信宏・河野淳・清水朝子・富澤文子・池谷淳・鈴木衛(2003)長期人工内耳装用症例のアンケート調査. *Audiology Japan*. 46, 135-144.
- Nobel W G, Atherly G R C. (1970) The hearing measurement scale : A questionnaire for the assessment of auditory disability. *The Journal of Auditory Research*, 10, 229-250.
- Nobel W. (1998) *Self-Assessment of Hearing and Related Functions*. Whurr Publishers, London, UK.
- Northern J L, Downs M P. (2002) *Hearing in Children. 5thEd.* Lippincott Williams & Wilkins, Baltimore, Maryland.
- 小畑修一(1985)我が国における聴覚障害者の言語教育の歴史. *リハビリテーション研究*, 50, 2-8.
- 小畑修一(1992)聴覚障害の受容と克服. *聴覚障害*, 47 (4), 4-11.
- 緒方悦子・新谷朋子・岡崎聡子・縫郁美・氷見徹夫(2001)小児人工内耳症例の保護者に対するアンケート調査. *Audiology Japan*. 44, 499-500.
- 大沼直紀(1983a)装用時の音場測定による補聴器の規定選択法. *聴覚言語障害*, 12 (4), 155-162.
- 大沼直紀(1983b)ファンクショナルゲイン測定による補聴器の規定選択法. *Audiology Japan*, 26 (4), 327-328.
- 大沼直紀(1984)日本語数唱聴きわけによる聴覚障害児の聴能の評価法(JANT)の試行. *Audiology Japan*, 27 (1), 71-75.
- 大沼直紀(1985)補聴器の適応 : スピーカ法を中心とした実際的方法. *聴覚障害教育研究*, 17, 66-76.
- 大沼直紀(1988)遊戯的語音聴力検査法の開発に関する研究. *国立特殊教育総合研究所研究紀要*, 15, 19-23.
- 大沼直紀(1997)教師と親のための補聴器活用ガイド. コレール社.
- 大沼直紀・岡本途也(1994)簡易語音検査による聴覚障害児の聴能の評価.



- Audiology Japan, 37, 64-73.
- 大竹一成(1998)聾学校高等部生徒の補聴に関する意識調査とその一考察. 特殊教育学研究, 36 (2), 73-80.
- 大田民樹・朝比奈紀彦・大氣誠道・友松英男・岡本途也・尾上正嗣・橋本晃雄(1990) 3チャンネル補聴器の使用経験. *Audiology Japan*, 33, 671-672.
- 岡田慎一・西尾薫・新井峻・阿瀬雄治・宇佐神正海(1989)補聴器装用前の不自由さの自覚と家族の評価. *Audiology Japan*, 32, 595-596.
- 岡本朗子・鈴木恵子・原由紀・岡本牧人・佐野肇・平山方俊・設楽哲也・小野雄一(1995)補聴器装用前後におけるコミュニケーション障害の検討. *Audiology Japan*, 38, 699-700.
- Pascoe D. (1975) Frequency responses of hearing aid and their effects on the speech perception of hearing impaired subjects. *The Annals of Otology, Rhinology and Laryngology. Suppl*, 23, 84, 1-40.
- Pichora-Fuller K, Schow R L. (2002) Audiologic rehabilitation for adults and elderly adults. in Schow R L, Neronne M A. (ed), *Introduction audiologic rehabilitation 4<sup>th</sup> ed*, Pp335-402. Allyn and Bacon, Boston.
- Purdy S C, Farrington D R, Moran C A, Chard L L, Hodgson S. (2002) A parental questionnaire to evaluate children's auditory behavior in everyday life (ABEL). *American Journal of Audiology*, 11 (2), 72-82.
- Robbins A, Renshaw J, Berry S. (1991) Evaluating meaningful auditory integration profoundly hearing-impaired children. *The American Journal of Otology*, 12 Suppl, 144-150.
- 桜井博・志水康雄・四日市章(1992)聾学校における体育活動時の補聴器装用法に関する調査研究. 筑波大学附属聾学校紀要, 14, 83-102.
- 佐野肇・竹内義夫・浅野和江・鈴木淳子(1991)コミュニケーション障害と聴覚検査. *Audiology Japan*, 34, 667-668.
- 佐野肇・平山方俊・岡本牧人・設楽哲也・鈴木恵子・原由紀(1994)聴覚コミュニケーション障害に対する自覚的評価法の検討. *Audiology Japan*, 37, 395-396.
- 佐藤正幸(2001)聴覚障害児・者におけるきこえの自己評価に関する文献的考察. 国立特殊教育総合研究所紀要, 28, 57-65.

- 佐藤昭三・長井今日子・鎌田英男・古屋信彦・竹内一夫・鈴木庄亮(2000)聴能に関する生活の質指数自記式質問紙日本版の開発：第1報～加齢に伴う変化。  
*Audiology Japan*, 43, 54-62.
- 佐藤昭三・鈴木庄亮・長井今日子・鎌田英男・古屋信彦(2000)聴能に関する生活の質指数自記式質問紙日本版の開発：第2報～因子分析による尺度の構成。  
*Audiology Japan*, 43, 63-71.
- Schow R L, Brockett J, Sturmak M J, Longhurst T M. (1989) Self-assessment of Hearing in Rehabilitative Audiology: Developments in the USA. *British Journal of Audiology*, 23 (1), 13-24.
- Schow R L, Gatehouse S. (1990) Fundamental Issues in Self-assessment of Hearing. *Ear and Hearing*, 11, 6-16.
- Schow R L, Nerbonne M A. (2002) *Introduction Audiologic Rehabilitation. 4<sup>th</sup>ed*, Allyn & Bacon, Boston.
- 志水康雄・亀井亨・堀越源一・加藤雄士・大沼直紀・渡辺隆・後藤豊・安東孝治(1994)補聴器装用効果からみた重度聴覚障害者の補聴器特性の改善に関する研究。聴覚障害教育工学, 18 (2), 1-8.
- 白井一夫(1996)インテグレートした聴覚障害者の思春期における葛藤に関する研究：仲間集団との対人関係を中心に。上越教育大学大学院学校教育研究科修士論文。
- 白井一夫(2004)聾学校通級指導教室の実践から：「通常学級スタッフへの情報発信」と「ことばの教室と結ぶ広域でのサポート」。平成15年度国立特殊教育総合研究所セミナー I 資料, 36-39.
- Smaldino J J, Anderson K L. (1997) Development of the Listening Inventory for Education. *Second Biennial Hearing Aid Research and Development Conference*. Bethesda, Maryland.
- Starr A, Picton T W, Siniger Y. (1996) Auditory neuropathy. *Brain : a journal of neurology*, 119, 741-753.
- 杉田律子(2000)普通学校にインテグレートした聴覚障害者の自我発達に関する研究。ろう教育科学, 42 (3), 145-158.
- Susan R E, Joyce A M. (2000) Teachers' ratings of functional communication in

- students with cochlear implants. *American Annals of the Deaf*, 145 (1), 54-59.
- Suzuki T, Ogiba Y. (1961) Conditioned orientation audiometry. *Archives of Otolaryngology*, 74, 192-198.
- 鈴木恵子・岡本牧人・原由紀・松平登志正・佐野肇・岡本朗子(2002)補聴効果評価のための質問紙の作成. *Audiology Japan*, 45, 89-101.
- 鈴木恵子・原由紀・岡本牧人(2002)難聴者による聴覚障害の自己評価:「きこえについての質問紙」の解析. *Audiology Japan*, 45, 704-715.
- 立入哉(1998)聾学校在籍児の補聴に関する実態調査報告. *特殊教育学研究*, 36 (1), 39-46.
- 高橋眞由美・高橋信雄(1987)環境音受聴検査の試作. *Audiology Japan*, 30, 579-580.
- 田中美郷(1989a)補聴器適合評価機器の試作に関する研究. 昭和63年度文部省科学研究費補助金(試験研究1)研究成果報告書.
- 田中美郷(1989b)医学より見た聴覚活用の意義と指導法. 今井秀雄編, 平成元年度科学研究費補助金(総合研究 A)研究成果報告書 聴覚障害児の主体的な聴覚学習の研究: 早期教育におけるプログラムの開発, 23-24.
- 田中美郷・廣田栄子(1995)聴覚活用の実際. 聴覚障害者教育福祉協会.
- 田中美郷・芦野聡子・針谷しげ子(2002)高度難聴児・人工内耳児のための聴覚・言語指導法—トップダウン方式(top down approach)について. *Audiology Japan*, 45, 655-656.
- 田内光・立石恒雄・米本清・小寺一興・鳥山稔・岡部馨・柴田文吉(1989)補聴器の両耳装用についてのアンケート調査. *Audiology Japan*, 32, 609-610.
- 田内光・安部浩一・渡部環(1993)補聴外来の方式による患者満足度の違い: アンケート結果より. *Audiology Japan*, 36, 347-348.
- 上田桂子(2003)特殊教育センターとしての聾学校を模索して: 地域に発信し, 関係機関との連携を求めて. 第37回全日本聾教育研究大会研究集録, 207-208.
- 上田礼子(1972)パーソナリティの発達. 新井清三郎・上田礼子(編)人間発達: リハビリテーション医学全書2. 医歯薬出版. Pp. 274-299.
- 植村秀晴(2001)聴覚障害者福祉・教育と手話通訳. 中央法規出版.
- 上農肇(1991)聴覚障害生徒の補聴器装用の自己評価に関する研究. 上越教育大学

大学院学校教育研究科修士論文.

Ventry I, Weinstein B. (1982) The hearing handicap inventory for the elderly: A new tool. *Ear and Hearing*, 3, 128-134.

鷺尾純一(1998)重複障害児の聴力評価と聴覚補償に関する研究. 風間書房.

矢持九州王(1991a)環境音による聴覚活用評価法の試み. 第25回全日本聾教育研究大会研究集録, 112-113.

矢持九州王(1991b)環境音による聴覚活用評価法の試み(1): 聴力正常児による特定周波数音の同定について. 聴覚言語障害, 20 (1), 17-27.

矢持九州王(1992)環境音による聴覚活用評価法の試み(2): 聴覚活用評価の判定基準について. 聴覚言語障害, 21 (1), 11-37.

弓削庫太・村井一夫・曾田豊二・石神寛通・中村賢二(1980)補聴器の装用効果について. *Audiology Japan*, 23, 563-568.

Zimmerman-Phillips S, Osberger M J, Robbins A M. (1997) IT-MAIS : Infant-Toddler meaningful auditory integration scale. *International Cochlear Conference*, New York.

## 謝 辞

本論文の作成にあたり、懇切丁寧なご指導とご助言をいただきました兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教授でおられる星名信昭先生，藤田継道先生，我妻敏博先生，前兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教授の小宮三弥先生に，心よりお礼申し上げます。

星名信昭先生には，研究室ではもちろんのこと，講義，学会・研究会などにおいて，ご専門の **Audiology** と聴覚障害児教育，研究に対する姿勢・考え方や論文の作成に至るまで，ご指導いただきました。上越教育大学大学院修士課程入学以前から10年にわたり，公私ともにお世話になりました。先生の「研究には厳しく，趣味は楽しく」と「継続は力なり」のことばを，今後の人生においても活かしていきたいと思えます。真実にありがとうございます。

藤田継道先生には，兵庫教育大学の研究室ばかりではなく，降りしきる雪の中を夜行列車で上越まで足を運んでくださったことをはじめ，熱心にご指導いただき，真実にありがとうございます。

我妻敏博先生には，上越教育大学大学院修士課程入学以来，公私ともにお世話になりました。講義やゼミ，学会などをとおして，聴覚障害児教育や言語指導，研究について多くのご指導・ご助言をいただき，ありがとうございます。

小宮三弥先生には，上越教育大学大学院修士課程在学時から，ご指導ご助言をいただき，真実にありがとうございます。

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教授の鈴木情一先生，藤原義博先生，加藤哲文先生には，本論文のご査読をいただき，ありがとうございます。

そして，本論文の研究にご協力いただいた多くの児童と保護者の方々はじめ，豊学校の先生方，ご支援いただいた多くの方々に，心よりお礼申し上げます。

最後に，博士課程への進学と研究，そして家庭を支えてくれた妻の陽子，父を待ち続けた息子の公悠に感謝します。

2006年 3月

加 藤 哲 則

本論文は、2006年(平成18年)3月に、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科にて受理された学位論文「聴覚障害児のきこえに関する自己評価の研究」の論文要旨ならびに論文本編を収録したものである。

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(上越教育大学)学位論文

## 聴覚障害児のきこえに関する自己評価の研究

加 藤 哲 則

学 位：博士(学校教育学)

授与機関：兵庫教育大学

授与年月日：2006年(平成18年)3月28日